

令和元年度(2019年度)水俣高校・水俣市合同防災訓練実施要項

<b>1 目的</b>
(1) 防災の目的は、災害を未然に防止(予防)し、災害が発生した場合に被害の拡大を防ぎ(応急対応)、災害からの復旧を図ることにある。これを踏まえ、自治体・地域・保護者が連携した訓練を行うことで生徒、職員、地域住民ひとりひとりの命を守るための防災意識の高揚を図る。 (2) 防災に強い地域、学校にしていくために、過去の教訓(水俣豪雨災害や熊本地震等)を反映した計画と実践的な訓練を行う。そのためには保護者の協力や地域住民との連携が重要であることを学びあう。
<b>2 実施日時</b>
令和元年9月1日(日) 職員:8時20分朝会(名札) 生徒:8時30分登校
<b>3 参加者</b>
水俣高校生徒・職員・保護者、水俣市関係(市役所、警察署、消防署、)、自衛隊 総計600名
<b>4 重点目標</b>
周囲の人たちと支えあった安全で迅速な避難と、避難所開設に伴う分担の確認。
<b>5 訓練概要</b>
(1) 防災行政無線、熊本県防災情報メールサービス等により、大雨洪水警報の情報等を得た水俣高校生徒、職員、住民が、水俣高校に避難し、自主防災組織や自治協力員等と連携して初動対応としての避難所開設、受付等を実施する。 (2) 水俣市から講話。DVD鑑賞。 (3) 「3区の住民と土嚢積み訓練」 「毛布で担架を作成。たたみ1畳を体験」 「自衛隊:軽装甲機動車、偵察用バイク、非常食(戦闘レーション)見学」 (4) 「災害時のコミュニケーションを学ぼう」 (5) 教室でアンケート記入し終礼を行う。

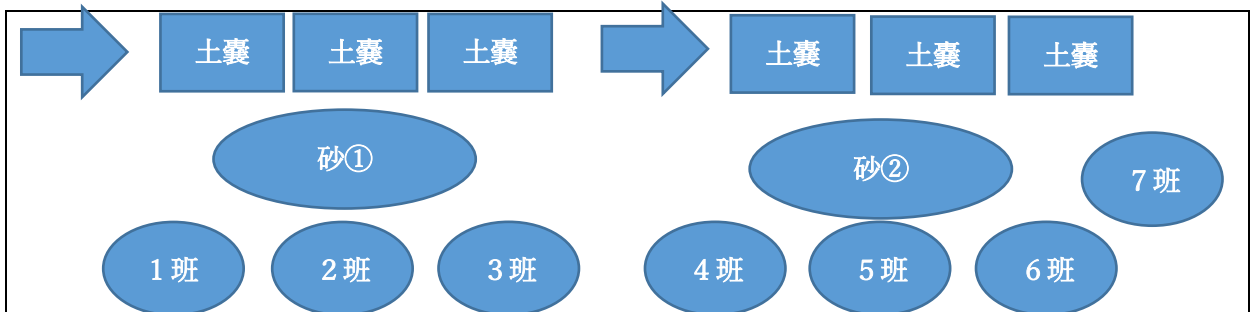
		ステージ							
全日制生徒(男222 女224 合計446名)					3区の避難者(合計100名)				
3年(73.74) 2年(87.78) 1年(62.72)					椅子20				
7 6 5 4 3 2 1		6 5 4 3 2 1			5 4 3 2 1				
職員(77名)									
保護者(15名)									
定時制生徒(男12女14 合計26名)									
4年(0.2) 3年(3.4) 2年(1.0) 1年(8.8名)									
職員(13名)									
保護者(3名)									
本部					バリアフリー救護所				
									
体育職員室					E V 倉庫 男子WC 女子WC				

タイムスケジュール						
	水俣市の 訓練の想定	A 班		B 班	C 班	
		3区 30名	1年 134名	2年・保護者 165名+18名	3年 147名	定時制 18名
8:30	水俣市に大雨・洪水警報が発表される。(防災行政無線・防災メールで周知)					
			SHR ・防災訓練の目的、概要説明 ・真剣に取り組む ・人の話を聞く ・貴重品の管理 ・水分補給 ・準備物:タオル・水筒・軍手			
8:40	警戒レベル3:避難準備・高齢者等避難開始発令 避難所開設・避難誘導開始(防災行政無線・防災メールで周知)					
	市担当者 避難所開設	高齢者等 避難開始	全日:LHR クラス裁量		定時制:3区の2台の車いすの方の対応 階段の昇降の手伝い	
8:50	土砂災害警戒情報発表(防災行政無線・防災メールで周知)					
9:10	警戒レベル4:避難勧告発令(防災行政無線・防災メールで周知)					
			放送による指示を聞き、体育館へ避難する。			
9:20			体育館で生徒・職員等の安否確認、負傷者等の把握 ・クラスの報告:委員長より人員状況→担任→学年主任へ→ 本部(教頭)へ報告 ・普通各教科主任は、( )へ報告→本部(副校長)へ報告 ・商・機・電建主任( )事・図( )→本部(副校長)へ報告 ・定時制、担任→( )へ報告→本部(定時制教頭)へ報告			
9:30	水俣市より、講話。					
9:40~ 10:15	DVD鑑賞 「熊本地震を学び次の災害に備える」 約24分 「災害に対する自助力アップ」 約11分					
10:30~ 10:50		「3区の住民と土嚢積み訓練」 ※3区、訓練終了 プール前	「毛布で担架を作成」 「たたみ1畳を体験」 体育館	「軽装甲機動車、 偵察用バイク、非常食」 正面玄関	「軽装甲機動車、 偵察用バイク、非常食」 正面玄関	
11:00~ 11:20	11:10~20 市長表敬 (ハンドマイクで 激励)	「毛布で担架を作成」 「たたみ1畳を体験」 体育館(3区見学有り)	「軽装甲機動車、 偵察用バイク、非常食」 正面玄関	「土嚢積み訓練」 プール前	「土嚢積み訓練」 プール前	
11:30~ 11:50		「軽装甲機動車、 偵察用バイク、非常食」 正面玄関(3区見学有り)	「土嚢積み訓練」 プール前	「軽装甲機動車、 偵察用バイク、非常食」 正面玄関	「毛布で担架を作成」 「たたみ1畳を体験」 体育館	
12:00~ 12:20			「災害時のコミュニケーションを学ぼう」			
12:20~ 12:30			防災アドバイザーより、講評。			
12:40~ 12:55			アンケート記入後に SHR。			
<b>職員研修</b>						
14:00~ 14:50	合同防災訓練の反省、改善点の検証					
15:00~ 15:50	生徒アンケート結果の集約と検討(担任) 避難所運営マニュアルの「学校職員による避難所の運営」について p.16~17					
16:00~ 16:10	職員アンケート記入					

※本部は、指示出しは全て記録する。

【3区の住民と土嚢積み訓練】 主任:

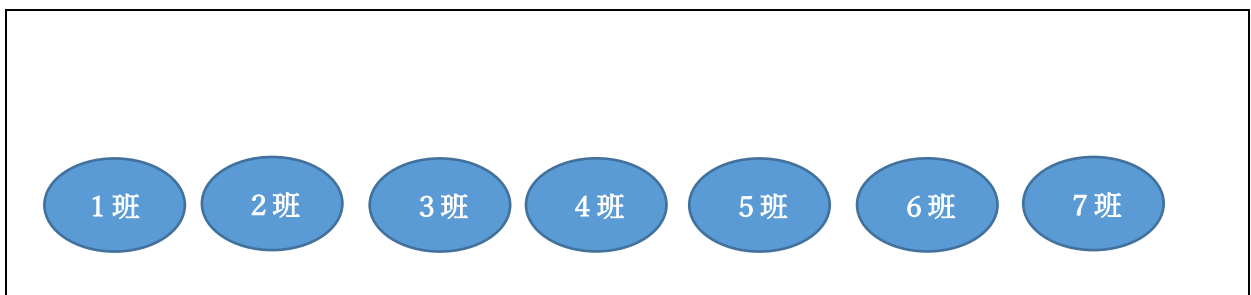
- 1 集合場所: プール前
- 2 業務内容: 1つのグループを5名程度で行う。3区の方も一緒に活動する。  
6班～7班に分れて活動する。(クラス別1組～7組にすると良い。)  
2カ所で、作業する。



- ① 土嚢づくり  
:土嚢袋をひろげ、スコップで4～5杯の砂を入れます。7割となり25kgになります。  
土を入れ終わったら、口ひもを引いて、袋の口をしぼります。しぼり終わったら親指を添え、その指の上を口ひもで2～3回軽く巻き付けます。巻き終わったら親指を抜き、空いた輪に口ひもを上から通し、最後に引っ張り、きつく絞ります。
- ② 運搬  
:二人で運んだり、一輪車を使い運びます。
- ③ 積み上げ  
:土嚢の口を下(しも)側にして重ねて並べ、「かけや」「角材」等で平坦になります。2段目以降も同様に土嚢を重ね並べます。(訓練では、3段積みになりました。)

【毛布で担架を作成。たたみ1畳を体験】 主任:

- 1 集合場所: 体育館
- 2 業務内容: 1つのグループを5名程度で行う。3区の方も一緒に活動する。  
6班～7班に分れて活動する。(クラス別1組～7組にすると良い。)  
6～7カ所で、作業する。



- ① 毛布たんかづくり  
:毛布、シーツ等大きめの布を竹竿等の長い棒を置いて折り返し作ります。
- ② 衣類たんかづくり  
:5枚以上の上着を準備し、上着のボタンを掛けたまま両側から袖を竹竿に通せば完成です。  
担架がない場合でも身近な物を使うことで、なるべく患者に負担を掛けず移動できるようにします。ただし、患者の状態や重量等、移動に困難が生じる場合は無理をしないことが大切です。

【自衛隊:軽装甲機動車、偵察用バイク、非常食(戦闘レーション)見学】 主任:

- 1 集合場所: 正面玄関、事務室前駐車場
- 2 業務内容: 6班～7班に分れて活動する。(クラス別1組～7組にすると良い。)  
自衛隊の備品を色々な角度から見学する。また、乾パン(保存食)を食べてみる。

プリント1枚で防災教育シリーズ「災害時のコミュニケーションを学ぼう」

質問・回答シート【全員配付(班に1枚でも可)】

問題1:あなたは海の近くの学校の生徒です。突然、大きな地震がおきました。

校長先生が校内放送で「屋上へ逃げろ!」と言っています。

でも、担任の先生は「屋上では助からない。外へ出て高台へ行こう」と言っています。あなたは、どのように行動しますか?

YES(従う・屋上へ) or NO(従わない・先生と外へ)

問題2:あなたは海の近くの学校の生徒です。地震が起きて津波から逃げる途中、車に乗った友だちのお母さんに声をかけられました。

「早く乗りなさい」でも、先生は「車は渋滞で動けなくなるから危険だ。一緒に走って逃げるぞ!」と言う。車に乗る?

YES(乗る) or NO(乗らない・先生と走る)

問題3:あなたは津波の心配のない学校にいます。大きな地震が起きた後、自分は無事で先生は「しばらく学校で待機するように」と言っています。でも、家では10歳の妹がカゼで寝ています。両親は仕事先から帰ることができません。それでも、先生の指示に従う?

YES(従う・帰らない) or NO(従わない・帰る)

問題4:あなたは家で大型犬(ゴールデンレトリバー、3歳)を飼っています。家族と同じように仲良しなので、避難所(学校)と一緒に暮らしたいと思うのに、避難所(学校)では『ペットはお断り』と言われました。それでも、連れて行く?

YES(連れて行く) or NO(連れて行かない・置いていく)

問題5:あなたは家族と一緒に避難所にいます。非常持ち出し袋を用意していたのですが、周りには誰も持っていません。ノドも乾いたしお腹も空いたので開けようとしたら、お父さんが「いま開けたら分けて下さいと言われたり、誰かに盗られたりするかも。」と言いました。それでも、開ける?

YES(開ける) or NO(開けない)

問題1から問題5 共通の回答シート

( )年( )組 名前( )の結論 ( )

- ・自分の出した結論
- ・それを選んだ理由やもう一つの選択肢を選ばなかった理由
- ・それを選んだことによってどんな問題が生じますか。またどう解決しますか
- ・その他メモ

問題6:自分が中学生の時に経験した大きな地震から30年が経ちました。

自分も結婚して、子どもが中学生になりました。

自分の子どもと、地震のことについて話してみようと思いますか。

YES(思う) or NO(思わない)

( )年( )組 名前( )の結論 ( )

- ・自分の出した結論
- ・それを選んだ理由やもう一つの選択肢を選ばなかった理由
- ・YESを選んだグループ、どのような話を、どのような目的のために話すか
- ・NOを選んだグループ、子供に聞かれたら、何と答えるか。またいつになったら話してあげようと思うか。
- ・その他メモ

## ◎土の詰め方

写真)土のう袋規格:48cm×60cm UV土のう袋(紫外線劣化防止剤入)



① 土のう袋をひろげ、スコップで4〜5杯の火山灰を入れます。  
(48cm×60cm規格で7〜8割となり、重さは25kg〜30kgになります。)



② 土を入れ終えたら、口ひもを引いて、袋の口をしぼります。



③ しぼりおえたら親指を添え、その指の上を、口ひもを2〜3回軽く巻き付けます。



④ 巻き終えたら親指を抜き、空いた輪に口ひもを上から通します。  
(下からでも可)

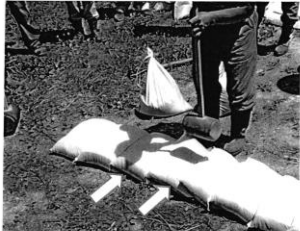


⑤ 最後に、通した口ひもを引っ張り、きつく締めます。



⑥ できあがりです。

## ◎土のう袋の積み方



① 土のうの口を下(しも)側にして重ね並べ、かけや等で平坦にならします。  
(矢印側からの水を防ぐ)



② 2段目は隣も同様土のうを重ね並べます。(講習会では3段積みにもしました)  
(矢印側からの水を防ぐ)



③ 足の幅程度(約30cm)に間を開け、補強用土のうを積みみます。



④ 同じ要領で土のうを積み上げます。



⑤ 土のうと土のうの間に火山灰を入れます。



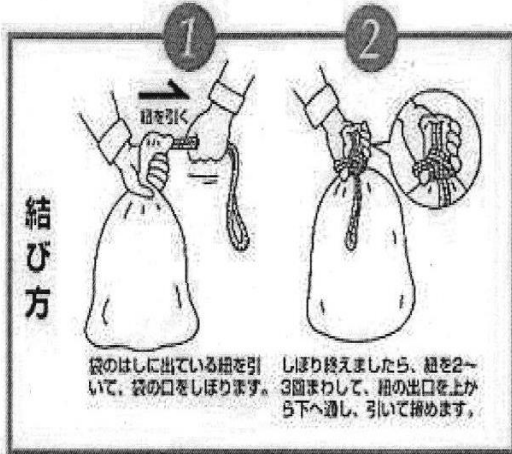
⑥ 間に入れた火山灰も足で踏み固めます。



⑦ できあがりです。(矢印側からの水を防ぐ)  
2重の壁にすることで、より強い土のうの壁ができます。



⑧ できあがりです。(矢印側からの水を防ぐ)



## 身近なもので応急担架を作ろう

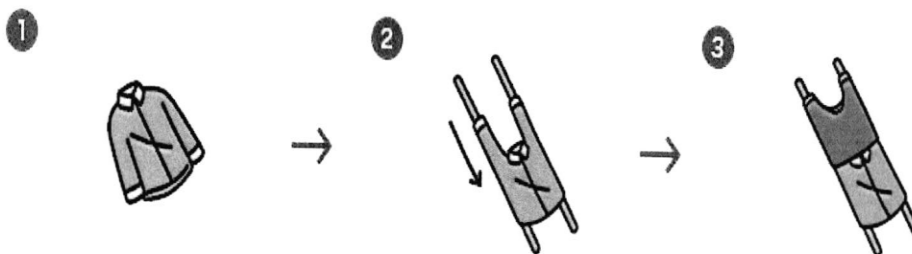
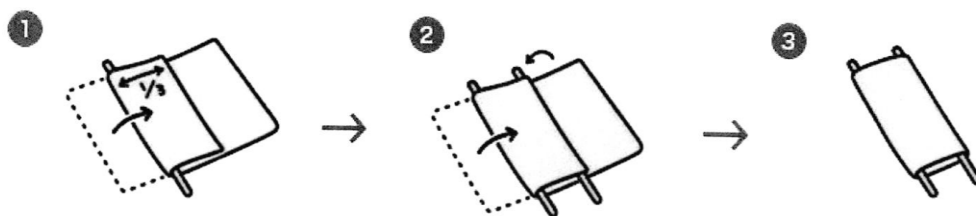
【用意するもの】

1. 毛布、または衣服やシーツ等大きめの布
2. 竹竿等の長い棒

応急担架は、毛布で作ることができます。

- ①毛布を横向きにし、左から3分の1のところを竹竿を置いて折り返します。
- ②折り返した辺の端に十分な余裕をとり、竹竿をもう1本置いて、右側も折り返します。
- ③最後に、右側から折り返した毛布を左の竹竿にかけて折り返せば完成です。

もし竹竿等の棒がない場合は、毛布の両端をしっかり内側に巻いて上からつかんで運びましょう。



毛布の代わりに衣服を利用して作ることもできます。5枚以上の上着を準備し、上着のボタンを掛けたまま両側から袖を竹竿に通せば完成です。毛布や衣服以外にも、シーツ等大きめの布を担架の代わりに活用することもできます。担架がない場合でも身近なものを使うことで、なるべく患者に負担を掛けず移動できるようにしましょう。ただし、患者の状態や重量等、移動に困難が生じる場合は無理をしないことが大切です。